

# 「第4期がん対策推進基本計画評価指標一覧」(マスタ) \_ベースライン値

厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課 (2026年4月時点の集計値)

分野	#	再掲	指標	3期	データソース	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(ベースライン値)	比較上留意が必要な指標
全体目標「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」										
最終アウトカム指標	000001	一次予防/均霑・集約/ゲラム/手術/チーム/支持/実装	がんの年齢調整死亡率(75歳未満、全年齢)	1001	人口動態統計	都道府県別、年別、性別、年齢5歳階級別人口(総人口)	都道府県別、年別、性別、年齢5歳階級別、悪性新生物死亡数	【旧基準人口】(75歳未満;人口10万対;2022年) 【旧基準人口】(全年齢;人口10万対;2022年)	(75歳未満) 男女計 67.4 男性 81.1 女性 54.9 (全年齢) 男女計 108.6 男性 142.5 女性 82.5	
	000002	二次予防	がん種別年齢調整死亡率(75歳未満、全年齢)	1002	人口動態統計	都道府県別、年別、性別、年齢5歳階級別人口(総人口)	都道府県別、年別、性別、年齢5歳階級別、がん種別死亡数	【旧基準人口】(男女計・75歳未満;人口10万対;2022年) 【旧基準人口】(男女計・全年齢;人口10万対;2022年)	(75歳未満) 胃 6.2 大腸 9.7 肝 3.5 肺 11.9 女性乳房 10.4 子宮頸部 2.6 (全年齢) 胃 10.8 大腸 15.0 肝 6.2 肺 20.7 女性乳房 12.1 子宮頸部 2.8	
	000003	難治	難治性がん(代表例:膵がん)の年齢調整死亡率	2002	人口動態統計	都道府県別、年別、性別、年齢5歳階級別人口(総人口)	都道府県別、年別、性別、年齢5歳階級別、がん種別死亡数	【旧基準人口】(男女計・75歳未満;人口10万対;2022年) 【旧基準人口】(男女計・全年齢;人口10万対;2022年)	(75歳未満) 膵 7.0 (全年齢) 膵 11.3	
	000004	一次予防	がんの年齢調整罹患率	1003	全国がん登録	全国・都道府県別年齢階級別(85歳以上丸め)人口,性,暦年別(総人口)	全国・都道府県別年齢5歳階級別罹患数,性,診断年別	【旧基準人口】(全年齢;人口10万対;2019年)	男女計 387.4 男性 445.7 女性 346.7	
	000005	二次予防	がん種別年齢調整罹患率	1004	全国がん登録	全国・都道府県別年齢階級別(85歳以上丸め)人口,性,暦年別(総人口)	全国・都道府県別年齢5歳階級別罹患数,性,診断年別	【旧基準人口】(男女計・全年齢・全進展度;人口10万対;2019年)	胃 41.6 大腸 58.2 肝 12.0 肺 42.4 女性乳房 100.5 子宮頸部 13.9	
	000006	均霑・集約/ゲラム/手術/チーム/支持/実装	がん種別5年生存率	2001	全国がん登録/院内がん登録	2016年に診断されたがん症例(全国・都道府県別(15歳以上)、性別)	そのうち診断から5年生存しているがん症例(全国・都道府県別(15歳以上)、性別)※がんのみで死亡するリスクを想定するために一般人口の死亡率で調整している(詳細は厚生労働省の生存率報告書を参照)	2016年(診断年)(総数・5年純生存率(%):AYA・成人(15歳以上)のみ)	胃 64.0 大腸 67.8 肝 33.4 肺 37.7 女性乳房 88.0 子宮頸部 71.8	
	000007	希少	希少がんの5年生存率	2002	全国がん登録/院内がん登録	2016年に診断されたがん症例(全国・都道府県別(15歳以上)、性別)	そのうち診断から5年生存しているがん症例(全国・都道府県別(15歳以上)、性別)※がんのみで死亡するリスクを想定するために一般人口の死亡率で調整している(詳細は厚生労働省の生存率報告書を参照)	2016年(診断年)(総数・5年純生存率(%):AYA・成人(15歳以上)のみ)	別添参照	
	000008	難治	難治性がん(代表例:膵がん)の5年生存率	2002	全国がん登録/院内がん登録	2016年に診断されたがん症例(全国・都道府県別(15歳以上)、性別)	そのうち診断から5年生存しているがん症例(全国・都道府県別(15歳以上)、性別)※がんのみで死亡するリスクを想定するために一般人口の死亡率で調整している(詳細は厚生労働省の生存率報告書を参照)	2016年(診断年)(総数・5年純生存率(%):AYA・成人(15歳以上)のみ)	膵 11.8	
	000009	小児AYA	小児がん患者の5年生存率	2091	全国がん登録/院内がん登録	2016年に診断されたがん症例(全国・都道府県別(小児15歳未満)、性別)	そのうち診断から5年生存しているがん症例(全国・都道府県別(小児15歳未満)、性別)※がんのみで死亡するリスクを想定するために一般人口の死亡率で調整している(詳細は厚生労働省の生存率報告書を参照)	2016年(診断年)(総数・5年純生存率(%):小児(15歳未満)のみ)	全分類 82.4	
	000010	均霑・集約/ゲラム/手術/チーム/支持/緩和/妊孕/難治/高齢者/実装/相談支援/社会連携/サバ/ライフ	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	3001	患者体験調査	H30調査回答者全体(本人回答のみ)	問 35-7.現在自分らしい日常生活を送れていると感じる。「とても思う、ある程度思う」と回答した割合	平成30年度	70.5%	*
	000011	希少	現在自分らしい日常生活を送れていると感じる希少がん患者の割合	3001	患者体験調査	H30調査希少がん暫定義該当回答者(本人回答のみ)	問 35-7.現在自分らしい日常生活を送れていると感じる。「とても思う、ある程度思う」と回答した患者の割合	平成30年度	69.2%	*
	000012	小児AYA	現在自分らしい日常生活を送れていると感じる若年がん患者の割合	3001	患者体験調査	H30調査40歳未満回答者(本人回答のみ)	問 35-7.現在自分らしい日常生活を送れていると感じる。「とても思う、ある程度思う」と回答した患者の割合	平成30年度	66.8%	*

分野	#	再掲	指標	3期	データソース	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(ベースライン値)	比較上留意が必要な指標
<b>1. 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実</b>										
分野別アウトカム指標	100001		がん種別年齢調整罹患率(胃・大腸・肺・女性乳房・喫煙関連がん)	1004	全国がん登録	全国・都道府県別年齢階級別(85歳以上丸め)人口, 性, 暦年別(総人口)	全国・都道府県別年齢5歳階級別罹患率, 性, 診断年別	【旧基準人口】(男女計・全年齢・全進展度)	胃 41.6 大腸 58.2 肝 12.0 肺 42.4 女性乳房 100.5	
	100002		がん種別年齢調整罹患率(肝・ATL・子宮頸部)	1004	全国がん登録	全国・都道府県別年齢階級別(85歳以上丸め)人口, 性, 暦年別(総人口)	全国・都道府県別年齢5歳階級別罹患率, 性, 診断年別	【旧基準人口】(男女計・全年齢・全進展度)	肝 12.0 (がん情報サービスサイトで公開済) ATL 0.44 (がん情報サービスサイトで公開済) 子宮頸部 13.9 (がん情報サービスサイトで公開済)	
	100003		検診がん種別早期がん割合	-	全国がん登録	全国・都道府県別 全進展度部位別がん罹患率(※胃・肺は上皮内がんを含まない、大腸・乳房・子宮頸部は上皮内がんを含む)	全国・都道府県別 進展度が限局のがん罹患率(※胃・肺は上皮内がんを含まない、大腸・乳房・子宮頸部は上皮内がんを含む)	(男女計・全年齢; 2019年)	(がん情報サービスサイトで公開済) 胃59.6% 大腸59.1% 肺35.4% 乳54.6% 子宮頸部80.8%	
	100004		検診がん種別進行がん罹患率	-	全国がん登録	全国・都道府県別 年齢階級別(85歳以上丸め)人口, 性, 暦年別(総人口)	全国・都道府県別 年齢5歳階級別別進行がん罹患率, 性, 診断年別	【旧基準人口】(男女計・全年齢; 人口10万)	(がん情報サービスサイトで公開済) 胃16.5 大腸30.1 肺27 乳40 子宮頸部1	
<b>がんの1次予防</b>										
<b>生活習慣について</b>										
アウトプット指標	111101		拠点病院等*1で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数(総数)	-	現況報告書	なし	がん診療連携拠点病院等で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数(総数)	令和4年1月1日～令和4年12月31日	1,717回	
【参考】 第51回厚生 科学審議会 地域保健健康増進栄養部会資料1より	中間アウトカム指標	111201	BMI18.5以上25未満(65歳以上はBMI20を超え25未満)の者の割合	1018	国民健康・栄養調査	20歳以上の身長・体重の測定者(妊婦を除く)	BMI18.5以上25未満(65歳以上はBMI20を超え25未満)の者(年齢調整値)	令和6年	62.20%	
		111202	食塩摂取量の平均値	1019	国民健康・栄養調査	なし	20歳以上の平均値	令和6年	9.6g	
		111203	野菜摂取量の平均値	1020	国民健康・栄養調査	なし	20歳以上の平均値	令和6年	258.7g	
		111204	果物摂取量の平均値	1021	国民健康・栄養調査	なし	20歳以上の平均値	令和6年	78.1g	
		111205	1日の歩数の平均値	-	国民健康・栄養調査	なし	20歳以上の平均値(年齢調整値)	令和6年	7,231歩	
		111206	運動習慣者の割合	1017	国民健康・栄養調査	20歳以上の回答者(医師等から運動禁止されている者を除く)	運動習慣者と回答した者(年齢調整値)(※) ※1回30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続していると回答した者	令和6年	31.30%	
		111207	1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上の者の割合	1016	国民健康・栄養調査	20歳以上の回答者	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者	令和6年	男性13.9% 女性9.3%	
		111208	中学生・高校生の飲酒者の割合	-	厚生労働科学研究	中学1～3年・高校1～3年の男女	この30日間で1日でも飲酒した者(推計値)	令和6年	1.70%	
		111209	20歳以上の者の喫煙率	1011	国民健康・栄養調査	20歳以上の回答者	現在習慣的に喫煙している者(年齢調整値)(※) ※「現在習慣的に喫煙している者」とは、たばこを「毎日吸っている」又は「時々吸う日がある」と回答した者	令和6年	14.80%	
		111210	望まない受動喫煙(家庭・職場・飲食店)の機会を有する者の割合	1015	国民健康・栄養調査	20歳以上の回答者	望まない受動喫煙(家庭・職場・飲食店)の機会を有する者(※) ※「家庭」「職場」「飲食店」のいずれか1つ以上において月1回以上受動喫煙の機会を有する者	令和6年	26.70%	
		111211	中学生・高校生の喫煙者の割合	1012	厚生労働科学研究	中学1～3年・高校1～3年の男女	この30日間で1日でも喫煙した者(推計値)	令和6年	0.70%	
		111212	妊婦の喫煙率	1013	こども家庭庁	健康日本21(第三次)に準ずる予定	健康日本21(第三次)に準ずる予定	-	-	
<b>感染症対策について</b>										
<b>HPV</b>										
アウトプット指標	112101		HPVワクチン定期予防接種実施率	-	地域保健・健康増進事業報告	総務省公表「人口推計」における当該ワクチンの標準接種期間(13歳)に該当する女性の人口	地域保健・健康増進事業報告において報告された年間接種者数	令和3年度	37.4%	
<b>肝炎</b>										
アウトプット指標	112102		肝炎患専門医療機関数	-	地方自治体における肝炎対策実施状況調査	なし	全都道府県における肝炎患専門医療機関数	令和3年度	3,226施設	
	112103		肝炎医療コーディネーターの養成者数	-	地方自治体における肝炎対策実施状況調査	なし	全都道府県における肝炎医療コーディネーターの養成者数	令和3年度	4397人	
	112104		B型肝炎定期予防接種実施率	参3	地域保健・健康増進事業報告	総務省公表「人口推計」における当該ワクチンの標準接種期間(0歳)に該当する人口	地域保健・健康増進事業報告において報告された年間接種者数	令和3年度	97.0%	
中間アウトカム指標	112201		B型・C型肝炎ウイルス検査受検率	参2	厚生労働科学研究(田中研)	選挙人名簿からの無作為抽出	肝炎ウイルス検査受検者数	令和3年度	B型 86.5% C型 77.5%	
	112202		B型・C型肝炎ウイルス陽性者数	参1	「地域保健・健康増進事業報告(健康増進編)」及び	都道府県、保健所設置市、特別区	B型・C型肝炎ウイルス陽性者数	令和3年度	B型 4,624人 C型 1,728人	
<b>HTLV-1</b>										
アウトプット指標	112105		HTLV-1関連のホームページの閲覧数(厚労省や厚生労働科学研究班作成のホームページのPV数)	-	厚生労働省調べ	厚労省と厚生労働科学研究班作成のホームページ	閲覧件数(PV数)解析	令和4年度	総数226,589件	
	112106		HTLV-1関連の窓口数	-	感染症課調査	なし	厚生労働省HTLV-1ホームページでの「HTLV-1相談・医療機関」案内数	令和4年度	1,372箇所	
	112107		HTLV-1の保健所の検査数	-	感染症課調査	なし	都道府県、政令市・中核市等保健所設置市に対するアンケートで回答を得た検査件数	令和4年度	87箇所	
	112108		妊婦健康診査におけるHTLV-1抗体検査の公費負担実施率	-	母子保健課調査	全国の市町村数	妊婦健康診査においてHTLV-1抗体検査の公費負担を実施している市区町村数	令和4年	100%	
中間アウトカム指標	112203		ヒト細胞白血病ウイルス1型感染率	参4	厚生労働科学研究	なし	-	-	算出不可	
<b>その他</b>										

分野	#	再掲	指標	3期	データソース	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(ベースライン値)	比較上留意が必要な指標	
<b>がんの2次予防(がん検診)</b>											
<b>受診率向上対策について</b>											
アウトプット指標	121101		受診勧奨実施市町村数(特別区を含む、以下同じ)	-	市区町村におけるがん検診の実施状況調査	2021年度調査-各がん検診実施市町村数	⑥「個別受診勧奨を実施した」と回答した数	令和3年度	胃; 82.3% 大腸; 83.7% 肺; 80.1% 乳; 83.2% 子宮頸; 83.6%		
	121102		普及啓発キャンペーンの実施状況(資料の実質配布枚数、イベント参加者数)	-	がん検診受診率60%達成に向けた集中キャンペーン月間実施状況調査	なし	普及啓発キャンペーンで配布した資料の数とイベントの参加者数(延べ人数)	令和5年	資料の実質配布枚数: 1,900,852枚 イベント参加者数: 203,642人		
	121103		指針に基づく検診の実施率	-	-	-	-	-	-		
中間アウトカム指標	121201		検診受診率	1031	国民生活基礎調査	2022年度調査 2健康票 第132表の「総数」	胃; 50~69歳/過去2年、大腸・肺; 男女計40~69歳/過去1年、乳; 女40~69歳/過去2年、子宮頸; 女20~69歳/過去2年	令和4年度	胃; 42.1% 大腸; 45.9% 肺; 49.7% 乳; 47.4% 子宮頸; 43.6%		
<b>がん検診の精度管理等について</b>											
アウトプット指標	122101		がん検診の精度管理について技術的支援を行った市町村への支援数(特別区を含む)	-	厚生労働科学研究	なし	がん検診情報とがん登録情報を照合して感度・特異度を算出にあたって、厚生労働科学研究として、技術的支援を行った市町村数	令和4年度	14市町村(18条申請13、19条申請1)		
	122102		精密検査受診率の低い市町村の実態把握を行い、実際にそれらの市町村に指導・助言等の取り組みを実施した都道府県数	-	都道府県用チェックリスト実施率調査	2022年度調査回答47都道府県数(集団・個別)	下記項目すべてを「実施した」と回答した都道府県数 8. 精度管理評価に関する検討; (1-c) 市区町村毎のプロセス指標値を把握し、評価を行っているか (2) 評価の低い、もしくは指標に疑義※のある市区町村や検診機関に、聞き取り調査や現場訪問を行って、原因を検討しているか (3) 上記の評価結果を踏まえて、精度管理上の課題と改善策を策定しているか 9. 評価と改善策のフィードバック(指導・助言); (1-b) 市区町村毎のプロセス指標の評価を個別にフィードバックしているか (1-c) 精度管理に課題のある市区町村に改善策をフィードバックしているか	令和3年度	胃X線; 集団31.9%、個別27.3%、 胃内視鏡; 集団67.1%、個別69.0%、 大腸; 集団31.9%、個別26.7%、 肺; 集団31.9%、個別62.6%、 乳; 集団78.5%、個別67.5%、 子宮頸; 集団78.8%、個別67.3%		
	122103		全被用者保険者における要精密検査対象者への受診勧奨の実施割合	-	保険者データヘルス全数調査	がん検診の実施状況に関する項目の回答対象保険者(分母の数: 1467)	要精密検査対象者への受診勧奨を「実施している」と回答した保険者数(分子の数: 354)	令和3年度	24.1%		
	122104		正しいがん検診の周知のため、住民に対し、がん検診の正しい情報提供を実施した市町村数	-	市区町村用チェックリスト実施率調査	2022年調査回答市町村数(集団・個別)	3-(1) 受診勧奨時に、「検診機関用チェックリスト 1. 受診者への説明」が全項目記載された資料を、全員に個別配布したかへの回答	令和3年度	胃(X線); 集団78.6%、個別68.0%、 胃(内視鏡); 集団67.1%、個別69.0%、 大腸; 集団77.4%、個別66.0%、 肺; 集団76.0%、個別62.6%、 乳; 集団78.5%、個別67.5%、 子宮頸; 集団78.8%、個別67.3%		
中間アウトカム指標	122201		精密検査受診率	1032	地域保健・健康増進事業報告	2020年度報告、胃; 50-74歳、大腸・肺・乳; 40-74歳、子宮頸; 20-74歳の要精密検査者数	精検受診者数 = 要精密検査者数 - 未受診 - 未把握検査者数	令和2年度	胃X線; 79.7%、 胃内視鏡; 92.6%、 大腸; 70.2%、 肺; 82.6%、 乳; 89.8%、 子宮頸; 76.6%		
	122202		がん発見率	-	地域保健・健康増進事業報告	2020年度報告、胃; 50-74歳、大腸・肺・乳; 40-74歳、子宮頸; 20-74歳の受診者数	がんであったもの(子宮頸はCIN3を含む)	令和2年度	胃X線; 0.071%、 胃内視鏡; 0.200%、 大腸; 0.157%、 肺; 0.027%、 乳; 0.308%、 子宮頸; 0.16%		
	122203		偽陽性割合	-	地域保健・健康増進事業報告	2020年度報告、胃; 50-74歳、大腸・肺・乳; 40-74歳、子宮頸; 20-74歳の受診者数	要精検者数	令和2年度	胃X線; 5.9%、 胃内視鏡; 6.6%、 大腸; 6.1%、 肺; 1.5%、 乳; 6.3%、 子宮頸; 2.5%		
<b>科学的根拠に基づくがん検診の実施について</b>											
アウトプット指標	123101		指針の遵守市町村数	1033	市区町村におけるがん検診の実施状況調査	2021年度調査回答市町村数	検診項目・対象年齢・検診間隔毎の指針遵守	令和3年度	<検診項目> 胃; 64.6%、 大腸; 92.9%、 肺; 73.1%、 乳; 44.6%、 子宮頸; 74.4%、	<対象年齢> 胃; 6.2%、 大腸; 78.1%、 肺; 61.5%、 乳; 84.2%、 子宮頸; 97.0%、	<検診間隔> 胃; 5.2%、 大腸; 99.9%、 肺; 97.3%、 乳; 42.7%、 子宮頸; 37.1%
	123102		指針に基づかないがん検診の中止市町村数	参8	市区町村におけるがん検診の実施状況調査	2021年度調査で指針に基づかないがん検診実施市町村数(1423)	2021年度に実施をやめた、あるいはやめる予定	令和3年度	14市町村		

分野	#	再掲	指標	3期	データソース	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(ベースライン値)	比較上留意が必要な指標
<b>2. 患者本位で持続可能ながん医療の提供</b>										
分野別アウトカム指標	200001		がんの診断・治療全体の総合評価(平均点または評価が高い割合)	2005	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問23. 今回のがんの診断・治療全般について総合的に0~10で評価すると何点ですか? 回答選択肢: { (最低な医療) 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10 (最高の医療) } の回答者全員の平均点	平成30年度	7.9点	
	200002		小児がん患者のがんの診断・治療全般の総合評価(平均点又は評価が高い割合)	2005	小児患者体験調査	R1小児患者体験調査回答者全体	問25. 今回のがんの診断・治療全般に関し、受けた医療を総合的に0~10で評価すると何点ですか。回答選択肢: { (最低な医療) ,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10 (最高の医療) } の回答者全員の平均点	令和元年度	8.4点	
	200003		若者がん患者のがんの診断・治療全体の総合評価(平均点または評価が高い割合)	2005	患者体験調査	H30調査40 歳未満回答者	問23. 今回のがんの診断・治療全般について総合的に0~10で評価すると何点ですか? 回答選択肢: { (最低な医療) 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10 (最高の医療) } の回答者全員の平均点	平成30年度	7.8点	
	200004		一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩したと思う患者の割合	2003	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問30-1. 一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩した【とてもそう思う、ある程度そう思う】と回答した患者の割合	平成30年度	75.6%	*
	200005		治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合	-	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問15-1.「がん治療」を決めるまでの間に医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた【とてもそう思う、ある程度そう思う】と回答した患者の割合	平成30年度	75.0%	*
	200006		身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3012	患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答のみ)	問36-2. がんやがん治療に伴う身体の苦痛がある。(身体の苦痛とは、痛みに限らず、吐き気、息苦しさ、だるさ、しびれ、かゆみなどの、体のつらさを含みます)「ややそう思う、そう思う」と回答した患者の割合	平成30年度	34.70%	*
	200007		精神的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3013	患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答のみ)	問36-4. がんやがん治療に伴い、気持ちがつらい「ややそう思う、そう思う」と回答した患者の割合と回答した患者の割合	平成30年度	24.00%	
	200008		療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3015	遺族調査	2019-2020年遺族調査全回答者	問18b. 死亡前1カ月間、からだの苦痛が少なくなつた、回答選択肢「1 全くそう思わない~4 どちらともいえない」と回答した割合	令和元~2年度	46.9%	
	200009		療養生活の最終段階において、精神的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3016	遺族調査	2019-2020年遺族調査全回答者	問18c. 死亡前1カ月間、おだやかな気持ちで過ごせた、回答選択肢「1 全くそう思わない~4 どちらともいえない」と回答した割合	令和元~2年度	42.1%	
	200010		在宅で亡くなったがん患者の医療に対する満足度	3033	遺族調査のサブグループ解析(全死亡のうち在宅死亡)	2019-2020年遺族調査回答者のうち、自宅死亡者	問14. お亡くなりになった場所で受けた医療は全般的に満足でしたか、回答選択肢「4 やや満足~6 非常に満足」と回答した割合	令和元~2年度	79.1%	
	200011		希少がんについて、担当した医師ががんについて十分な知識や経験を持っていたと思う患者の割合	2083	患者体験調査	H30患者体験調査希少がん暫定義該当回答者	問20-8. あなた(患者さん)のがんに関して専門的な医療を受けられた。【とてもそう思う、ある程度そう思う】と回答した人の割合	平成30年度	80.0%	*
<b>がん医療提供体制等</b>										
<b>医療提供体制の均てん化・集約化</b>										
アウトプット指標	211101		役割分担に関する議論が行われている都道府県の数	-	現況報告書	なし	都道府県協議会で役割分担に関する議論が行われている都道府県の数	令和3年4月1日~令和4年3月31日	35都道府県	
	211102		がん治療前にセカンドオピニオンに関する話を受けたがん患者の割合	2025	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問13. がんの治療が始まる前に、担当医からセカンドオピニオンについて話がありましたか。「話があった」と回答した割合	平成30年度	34.9%	*
	211103		BCPIに関する議論が行われている都道府県の数	-	現況報告書	なし	都道府県協議会でBCPIに関する議論が行われている都道府県の数	令和3年4月1日~令和4年3月31日	19都道府県	
	211104		(参考)BCPを整備している拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	BCPを整備しているがん診療連携拠点病院等(428施設)	令和4年9月1日時点	93.9%	
	211105		都道府県協議会に小児がん拠点病院等が参加している都道府県の数	-	現況報告書	なし	都道府県協議会に小児がん拠点病院等が参加している都道府県の数	令和4年4月1日~令和5年3月31日	32都道府県	
	211106		病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する医師が1人以上配置されている拠点病院等の割合(がん診療連携拠点病院:専従の病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている割合、地域がん診療病院:専任の病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する医師が1人以上配置されている割合をそれぞれ評価)	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設) 地域がん診療病院(47施設)	専従の病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院(394施設) 専任の病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する医師が1人以上配置されている地域がん診療病院(26施設)	令和4年9月1日時点	がん診療連携拠点病院:96.3% 地域がん診療病院:55.3%	
	211107		細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されている拠点病院等の割合(がん診療連携拠点病院:専任の細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されている割合、地域がん診療病院:細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されている割合をそれぞれ評価)	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設) 地域がん診療病院(47施設)	専任の細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院(397施設) 細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されている地域がん診療病院(39施設)	令和4年9月1日時点	がん診療連携拠点病院:97.1% 地域がん診療病院:83.0%	
中間アウトカム指標	211201		担当した医師ががんについて十分な知識や経験を持っていたと思う患者の割合	-	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問20-8. あなた(患者さん)のがんに関して専門的な医療を受けられた。【とてもそう思う、ある程度そう思う】と回答した人の割合	平成30年度	78.7%	*
	211202		初診時から確定診断までの期間が1ヶ月未満の人の割合	-	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	「問10. なんらかの症状や検診で異常があつて初めて病院・診療所を受診した日から、医師から説明(確定診断)されるまで、おおよそどのくらいの時間がかかりましたか。」という質問に、「2週間未満」または「2週間以上1ヶ月未満」と回答した人の割合	平成30年度	71.5%	*

分野	#	再掲	指標	3期	データソース	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(ベースライン値)	比較上留意が必要な指標
<b>がんゲノム医療</b>										
アウトプット指標	212101		がんゲノム医療中核拠点病院等の数	2011	現況報告書(がんゲノム)	なし	がんゲノム医療中核拠点病院(13施設) がんゲノム医療拠点病院(32施設) がんゲノム医療連携病院(202施設) の数	令和5年9月1日時点	がんゲノム医療中核拠点病院:13施設 がんゲノム医療拠点病院:32施設 がんゲノム医療連携病院:202施設	
	212102		がんゲノム医療中核拠点病院等における遺伝医学に関する専門的な知識及び技能を有する医師の数*2	2013	現況報告書(がんゲノム)	なし	がんゲノム医療中核拠点病院等(がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム医療拠点病院、がんゲノム医療連携病院)における遺伝医学に関する専門的な知識及び技能を有する医師の数	令和5年9月1日時点	1,184人	
	212103		がんゲノム医療中核拠点病院等における遺伝医学に関する専門的な遺伝カウンセリング技術を有する者の数*2	2014	現況報告書(がんゲノム)	なし	がんゲノム医療中核拠点病院等(がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム医療拠点病院、がんゲノム医療連携病院)における遺伝医学に関する専門的な遺伝カウンセリング技術を有する者の数	令和5年9月1日時点	756人	
	212104		がんゲノム医療中核拠点病院等における遺伝カウンセリング等を行う部門につないだりする者の数*2	2015	現況報告書(がんゲノム)	なし	がんゲノム医療中核拠点病院等(がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム医療拠点病院、がんゲノム医療連携病院)における遺伝カウンセリング等を行う部門につないだりする者の数	令和5年9月1日時点	1,476件	
	212105		がんゲノム医療中核拠点病院等におけるがん薬物療法に専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の数*3	2016	現況報告書(がんゲノム)	なし	がんゲノム医療中核拠点病院等(がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム医療拠点病院)におけるがん薬物療法に専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の数	令和5年9月1日時点	1,055人	
中間アウトカム指標	212201		がんゲノム情報管理センターに登録された患者の数	2019	C-CATからのデータ提供	なし	C-CAT調査結果が返却された症例数	令和4年1月1日～令和4年12月31日	19,138例	
	212202		がんゲノム医療中核拠点病院等において遺伝性腫瘍に関する遺伝カウンセリングを実施した患者の数:遺伝性腫瘍に係る「遺伝カウンセリング料」の算定件数*2	2018	現況報告書(がんゲノム)	なし	がんゲノム医療中核拠点病院等(がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム医療拠点病院、がんゲノム医療連携病院)において遺伝性腫瘍に関する遺伝カウンセリング料を実施した患者の数:遺伝性腫瘍に係る「遺伝カウンセリング料」の算定件数	令和4年7月～令和5年6月	17,881人	
	212203		がん遺伝子パネル検査を実施した患者のうち、エキスパートパネルの結果治療薬の選択肢が提示された割合	-	C-CATからのデータ提供	C-CAT調査結果が返却された症例のうち、エキスパートパネルの対応について集計可能な症例数:18,372	エキスパートパネルの結果治療薬の選択肢が提示された症例数:8,282	令和4年1月1日～令和4年12月31日	45.1%	
	212204		がん遺伝子パネル検査を実施した患者のうち、エキスパートパネルで推奨された薬剤が投与された割合	-	C-CATからのデータ提供	C-CAT調査結果が返却された症例のうち、エキスパートパネルの対応について集計可能な症例数:18,372	エキスパートパネルで提示された治療薬を投与した(他院で投薬した場合を含む)症例数:1,507	令和4年1月1日～令和4年12月31日	8.2%	
	212205		ゲノム情報を活用したがん医療についてがん患者が知っている割合	2020	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問34.ゲノム情報を活用したがん医療について、知っていますか。「よく知っている、ある程度知っている」と回答した割合	平成30年度	17.0%	
<b>手術療法・放射線療法・薬物療法について</b>										
<b>手術療法</b>										
アウトプット指標	213101		拠点病院等における我が国に多いがん*4の鏡視下手術の割合	2031	現況報告書	拠点病院等における我が国に多いがんの手術件数 大腸がん:55,232件 肺がん:41,273件 胃がん:23,434件 前立腺がん:17,124件 肝臓がん:10,677件 胆のうがん:1,188件 膵臓がん:10,027件	拠点病院等における我が国に多いがんの鏡視下手術件数 大腸がん:43,731件 肺がん:35,773件 胃がん:15,332件 前立腺がん:16,539件 肝臓がん:4,632件 胆のうがん:104件 膵臓がん:1,857件	令和3年1月1日～令和3年12月31日	拠点病院等における我が国に多いがんの鏡視下手術の割合 大腸がん:79.2% 肺がん:86.7% 胃がん:65.4% 前立腺がん:96.6% 肝臓がん:43.4% 胆のうがん:8.8% 膵臓がん:18.5%	
	213102		厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業(JANIS)へ登録している拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業(JANIS)へ登録しているがん診療連携拠点病院等(399施設)	令和4年9月1日時点	87.5%	
中間アウトカム指標	213201		我が国に多いがん*4の術後短期死亡率	2032	院内がん登録+DPC	QI研究参加施設のうちのがん診療連携拠点病院(422施設)、当該年のがんの新規診断、自施設初回治療開始、大腸・肺・胃・乳・前立腺・肝・胆・膵がん、自施設で初回治療として外科的治療または鏡視下治療を実施した患者数。	大腸・肺・胃・乳・前立腺・肝・胆・膵がん別の、術後30日以内に死亡した患者数。	令和3年	大腸がん0.41%、肺がん0.32%、胃がん0.37%、乳がん0.02%、前立腺がん0.04%、肝臓がん0.58%、胆のうがん0.89%、膵臓がん0.42%	
	213202		診断から手術までの日数(術前化学療法の対象外のがん種・ステージ患者を対象を限定)	-	院内がん登録+DPC	QI研究参加施設のうちのがん診療連携拠点病院(422施設)で、当該年のがんの新規診断、自施設初回治療開始、全がん種で、自施設で初回治療として実施したがん治療のうち最初に外科的治療または鏡視下治療を実施した患者数。除外条件:診断日から手術日までの日数が121日以上の患者。診断日と手術日が同一日の患者。	診断日から手術日までの日数の平均値。	令和3年	41.4日	

分野	#	再掲	指標	3期	データソース	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(ベースライン値)	比較上留意が必要な指標
<b>放射線療法</b>										
アウトプット指標	213103		IMRTを提供しているがん診療連携拠点病院*5の割合	2035	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設)	IMRTを提供しているがん診療連携拠点病院(297施設)	令和4年9月1日時点	72.6%	
	213104		専従の放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合	2036	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設)	専従の放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院(393施設)	令和4年9月1日時点	96.1%	
	213105		常勤の診療放射線技師が2人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設)	常勤の診療放射線技師が2人以上配置されているがん診療連携拠点病院(395施設)	令和4年9月1日時点	96.6%	
	213106		専従の放射線治療に関する専門資格を有する常勤の看護師が放射線治療部門に1人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設)	専従の放射線治療に関する専門資格を有する常勤の看護師が放射線治療部門に1人以上配置されているがん診療連携拠点病院(204施設)	令和4年9月1日時点	49.9%	
中間アウトカム指標	213203		放射線治療関連QI(拠点病院等(QI研究参加施設*6)における標準的治療の実施割合)	-	院内がん登録+DPC	QI研究参加施設のうちのがん診療連携拠点病院(422施設)で、当該年にごがんの新規診断、自施設初回治療開始、診断時年齢70歳以下、乳がん(上皮性組織に限定)で、乳房部分切除術を実施した患者数。除外条件:乳房切除術を実施、術後病理学的ステージIV、術前の放射線療法を実施	以下のいずれかを満たす術後全乳房照射を実施した患者数。 術後化学療法なしの場合:手術日から140日以内に自施設で放射線療法を実施。 術後化学療法ありの場合:手術日から240日以内に自施設で放射線療法を実施。	令和3年	77.5%	
	213204		拠点病院等(QI研究参加施設)における手術から放射線治療開始までの期間	-	院内がん登録+DPC	QI研究参加施設のうちのがん診療連携拠点病院(422施設)で、当該年にごがんの新規診断、自施設初回治療開始、診断時年齢70歳以下、乳がん(上皮性組織に限定)で、乳房部分切除術を実施して、その後に術後全乳房照射を実施した患者数。除外条件:乳房切除術を実施、術後病理学的ステージIV、術前の放射線療法を実施	術後化学療法なし/あり別に、手術日から術後全乳房照射開始日までの日数の平均値。	令和3年	令和3年 術後化学療法なし 52.3 令和3年 術後化学療法あり 194.9	
<b>薬物療法</b>										
アウトプット指標	213107		専任のがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の薬剤師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合	2040	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設)	専任のがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の薬剤師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院(371施設)	令和4年9月1日時点	90.7%	
	213108		薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている拠点病院等の割合(がん診療連携拠点病院:専従の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている割合、地域がん診療病院:専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている割合をそれぞれ評価)	(2041)	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設) 地域がん診療病院(47施設)	専従の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院(408施設) 専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている地域がん診療病院(47施設)	令和4年9月1日時点	がん診療連携拠点病院:99.8% 地域がん診療病院:100%	
	213109		がん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている拠点病院等の割合(がん診療連携拠点病院:専従のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている割合、地域がん診療病院:専任のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている割合をそれぞれ評価)	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設) 地域がん診療病院(47施設)	専従のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されているがん診療連携拠点病院(341施設) 専任のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている地域がん診療病院(33施設)	令和4年9月1日時点	がん診療連携拠点病院:83.4% 地域がん診療病院:70.2%	
	213110		免疫関連有害事象を含む有害事象に対して、他診療科や他病院と連携して対応している拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	免疫関連有害事象を含む有害事象に対して、他診療科や他病院と連携して対応しているがん診療連携拠点病院等(456施設)	令和4年9月1日時点	100%	
	213111		自施設で対応できるがんについて提供可能な診療内容を病院HP等でわかりやすく広報している拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	自施設で対応できるがんについて提供可能な診療内容を病院HP等でわかりやすく広報しているがん診療連携拠点病院等(456施設)	令和4年9月1日時点	100%	
	中間アウトカム指標	213205		化学療法/薬物療法関連QI(拠点病院等(QI研究参加施設)における標準的治療の実施割合)	2021	院内がん登録+DPC	QI研究参加施設のうちのがん診療連携拠点病院(422施設)で、当該年にごがんの新規診断、自施設初回治療開始、大腸・胃・非小細胞肺癌(いずれも上皮性組織に限定)で、自施設で初回治療として外科的治療または鏡視下治療を実施した患者数。共通除外条件:術前の化学療法を実施	大腸の選択条件:術後56日以内に5FU+LV、UFT+LV、FOLFOX、Cape、CapeOX、S-1のいずれかを実施した患者数。 胃の選択条件:術後にCapeOX、S-1、S-1+DTX、SOXのいずれかを実施した患者数。 肺の選択条件:術後180日以内にシスプラチン・カルボプラチン・ネダプラチンのいずれかを含む化学療法を実施した患者数。	令和3年	大腸 53.1% 胃 67.0% 肺 40.0%
213206			遅延なく化学療法が行えているか(例:術後化学療法における手術から化学療法まで、あるいは、進行例における診断から化学療法までの期間)	-	院内がん登録+DPC	QI研究参加施設のうちのがん診療連携拠点病院(422施設)で、当該年にごがんの新規診断、自施設初回治療開始、大腸・胃・非小細胞肺癌(いずれも上皮性組織に限定)で、自施設で初回治療として外科的治療または鏡視下治療を実施し、術後1~180日に標準的化学療法を実施した患者数。共通除外条件:術前の化学療法を実施、手術日と同日に化学療法を実施、内視鏡的治療と内分泌療法とその他の治療のいずれかを実施、	手術日から術後化学療法開始日までの日数の平均値。	令和3年	大腸 44.6 胃 43.8 肺 55.5	
213207			科学的根拠を有する免疫療法について国民が必要な情報を取得できている割合	2043	世論調査	R5がん対策に関する世論調査全回答者	問10. がんの免疫療法とは、がん患者自身の免疫機能を高めることでがん細胞を排除する治療法です。あなたは、がんの免疫療法について、どのように思いますか。(複数選択可)「がんの免疫療法の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあると思う」を回答した割合	令和5年度	16.9%	

分野	#	再掲	指標	3期	データソース	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(ベースライン値)	比較上留意が必要な指標
<b>チーム医療の推進</b>										
アウトプット指標	214101		緩和ケア診療加算の算定回数	-	NDB	なし	緩和ケア診療加算	令和2年度	算定回数 664,638 患者数 57,076	
	214102		栄養サポートチーム加算の算定回数	-	NDB	なし	栄養サポートチーム加算	令和2年度	算定回数 210,551 患者数 70,332	
	214103		地域における相談支援や緩和ケアの提供体制・連携体制について協議し、体制整備を行った都道府県の数	-	現況報告書	なし	都道府県協議会で地域における相談支援や緩和ケアの提供体制・連携体制について協議し、体制整備を行った都道府県の数	令和4年9月1日時点	43都道府県	
	214104		がん患者の口腔健康管理のため院内又は地域の歯科医師と連携して対応している拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	がん患者の口腔健康管理のため院内又は地域の歯科医師と連携して対応しているがん診療連携拠点病院等(456施設)	令和4年9月1日時点	100%	
	214105		「栄養サポートチーム加算」を算定している拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(461施設)	「栄養サポートチーム加算」を算定しているがん診療連携拠点病院等(423施設)	令和5年9月1日時点	91.8%	
中間アウトカム指標	214201		主治医以外にも相談しやすいスタッフがいた患者の割合	2055	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問 20-9. 主治医以外にも相談しやすい医療スタッフがいた。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	48.8%	*
	214202		医療スタッフ間で情報が十分に共有されていると感じた患者の割合	-	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問 20-7. あなた(患者さん)のことで治療する医療スタッフ間で十分に情報が共有されていた。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	69.1%	*
<b>がんのリハビリテーションの推進</b>										
アウトプット指標	215101		がんリハビリテーション研修プログラムを修了している医療従事者の人数	2063	ライブランニングセンターからのデータ提供	なし	がんのリハビリテーション研修(E-CAREER)を修了している医療従事者の人数。累計は平成22年度～令和4年度。	令和4年度(まで)	5,073人(累計 54,368人)	
	215102		リハビリテーションに携わる専門的な知識及び技能を有する医師が配置されているがん診療連携拠点病院の割合	2061	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設)	リハビリテーションに携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数について、1人以上の回答があったがん診療連携拠点病院(379施設)	令和4年9月1日時点	92.7%	
	215103		がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識及び技能を有する療法士等を配置しているがん診療連携拠点病院の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設)	がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識および技能を有する理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の人数について、1人以上の回答があったがん診療連携拠点病院(403施設)	令和4年9月1日時点	98.5%	
中間アウトカム指標	215201		拠点病院等(QI研究参加施設)に通院・入院中のがん患者でリハビリテーションを受けた患者の割合	2062	院内がん登録+DPC	QI研究参加施設のうちのがん診療連携拠点病院(422施設)で、当該年のがんの新規診断、自施設初回治療開始された全がん種患者数。	リハビリを実施した患者数。リハビリの対象疾患は不問。入院・外来は不問	令和3年	42.4%	
<b>支持療法の推進</b>										
アウトプット指標	216101		がん相談支援センターにおけるアピアランスに関する相談件数	-	現況報告書	なし	がん相談支援センターにおけるアピアランスケアに関する相談件数	令和3年1月1日～令和3年12月31日	14,610件	
	216102		リンパ浮腫研修の受講者数	-	ライブランニングセンターからのデータ提供	なし	ライブランニングセンター主催のリンパ浮腫研修を受講し、修了試験に合格した者。累計は平成25年度～令和4年度。	令和4年度(まで)	408人(累計 4,595人)	
	216103		リンパ浮腫外来が設置されている拠点病院等の割合	2077	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	リンパ浮腫外来を設置していると回答したがん診療連携拠点病院等(260施設)	令和4年9月1日時点	57.0%	
	216104		リンパ浮腫に対して専門的な治療を受けられた患者の数:H007-4リンパ浮腫複合的治療料の算定回数	-	NDB	なし	リンパ浮腫複合的治療料(重症)、がん患者指導管理料(1以外)合算	令和2年度	算定回数 23,293 患者数 9,775	
	216105		ストーマ外来が設置されている拠点病院等の割合	2078	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	ストーマ外来を設置していると回答したがん診療連携拠点病院等(414施設)	令和4年9月1日時点	90.8%	
	216106	再掲	専任のがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の薬剤師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合	2040	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設)	専任のがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の薬剤師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院(371施設)	令和4年9月1日時点	90.7%	
	216107	再掲	薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている拠点病院等の割合(がん診療連携拠点病院:専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている割合、地域がん診療病院:専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている割合をそれぞれ評価)	(2041)	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設) 地域がん診療病院(47施設)	専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院(408施設) 専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている地域がん診療病院(47施設)	令和4年9月1日時点	がん診療連携拠点病院:99.8% 地域がん診療病院:100%	
	216108	再掲	がん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている拠点病院等の割合(がん診療連携拠点病院:専任のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている割合、地域がん診療病院:専任のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている割合をそれぞれ評価)	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設) 地域がん診療病院(47施設)	専任のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されているがん診療連携拠点病院(341施設) 専任のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている地域がん診療病院(33施設)	令和4年9月1日時点	がん診療連携拠点病院:83.4% 地域がん診療病院:70.2%	
	216109		支持療法に関するガイドラインの数	2073	Minds登録数	なし	日本がんサポーターケア学会(JASC)ウェブサイトで公開されている支持療法関連のガイドライン刊行物(2023年11月現在)	令和5年11月	12冊 JASCCがん支持医療ガイドシリーズ(9冊) がん医療におけるこころのケアガイドラインシリーズ(支持療法関連2冊) その他1冊	
中間アウトカム指標	216201		治療による副作用の見通しを持たない患者の割合	2074	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問 20-2. 治療による副作用の予測などに関して見通しを持たない。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	61.9%	*
	216202		身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談ができると思う患者の割合	2075	患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答のみ)	問 35-5. 身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できる。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	46.5%	*
	216203		外見の変化に関する悩みを医療スタッフに相談できたがん患者の割合	2076	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問 22. がん治療による外見の変化(脱毛や皮膚障害などを含む)に関する悩みを誰かに相談できましたか。「相談できた」と回答した割合	平成30年度	28.3%	*
	216204		拠点病院等(QI研究参加施設)において支持療法に関する標準診療を実施された患者の割合	2071	院内がん登録+DPC	QI研究参加施設のうちのがん診療連携拠点病院(422施設)で、当該年のがんの新規診断、自施設初回治療開始または治療継続、診断時20歳以上、自施設で初回治療として催吐高リスクの抗がん剤のいずれかを含む化学療法を実施した患者数。除外条件:胆道がん、胆のうがん、リンパ腫、手術日と同日の化学療法、胸腔・腹腔・心嚢ドレナージと同日の化学療法、動注化学療法、化学療法より3週間以内に造血幹細胞移植を実施	以下の3剤併用療法を実施した患者数:①NK1受容体拮抗薬、②5-HT3受容体拮抗薬、③デキサメサゾンまたは他のステロイド	令和3年	91.5%	

分野	#	再掲	指標	3期	データソース	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(ベースライン値)	比較上留意が必要な指標
がんと診断された時からの緩和ケアの推進										
緩和ケアの提供										
アウトプット指標	217101		拠点病院等の緩和ケアチーム新規診療症例数	-	現況報告書	なし	緩和ケアチームに対する新規診療症例数	令和3年1月1日～令和3年12月31日	157,180例	
	217102		特定疾患治療管理料 がん患者指導管理料イの算定数	-	NDB	なし	がん患者指導管理料(共同診療方針等を文書等で提供),がん患者指導管理料(共同診療方針等を文書等提供・情報通信機器)合算	令和2年度	算定回数 143,280 患者数 141,386	
	217103		緩和ケア外来の新規診療患者数	-	現況報告書	なし	緩和ケア外来の新規資料患者数	令和3年1月1日～令和3年12月31日	31,173人	
	217104		拠点病院等1施設あたりの地域連携推進のための多施設合同会議の開催数	-	現況報告書	なし	緩和ケアに関する地域連携を推進するための多職種連携カンファレンスを主催した数の平均	令和3年1月1日～令和3年12月31日	2.2回	
	217105		神経ブロックの実施数:L101-神経ブロック(神経破壊剤又は高周波凝固法使用)-腹腔神経叢ブロック(神経破壊剤又は高周波凝固法使用)の件数	-	NDB	なし	腹腔神経叢ブロック(神経破壊剤・高周波凝固法・パルス高周波法)	令和2年度	算定回数 306 患者数 295	
	217106		緩和的放射線照射の実施数:M001-3(直線加速器による放射線治療)の2(1以外の場合)の件数	-	NDB	なし	直線加速器による放射線治療(1以外)	令和2年度	算定回数 5,245 患者数 4,549	
	217107		緩和ケア外来への地域の医療機関からの年間新規紹介患者数	-	現況報告書	なし	緩和ケア外来への地域の医療機関からの年間新規紹介患者数	令和3年1月1日～令和3年12月31日	5,855人	
	217108	再掲	緩和ケア診療加算の算定回数	-	NDB	なし	緩和ケア診療加算	令和2年度	算定回数 664,638 患者数 57,076	
緩和ケア研修会										
アウトプット指標	217109		緩和ケア研修修了者数	3017	がん等における新たな緩和ケア研修等事業	なし	緩和ケア研修修了者数	令和4年度まで	171,792人	
中間アウトカム指標	217201		医療者はつらい症状にすみやかに対応していたと感じる割合	-	患者体験調査・遺族調査	成人:H30患者体験調査全回答者 遺族:2019-2020年遺族調査全回答者	成人:問20-6. つらい症状にはすみやかに対応してくれた。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合 遺族:問13a. 医療者は、患者さまの辛い症状にすみやかに対応していた。回答選択肢「4 ややそう思う～6 非常にそう思う」と回答した割合	成人 平成30年度遺族 令和元～2年	75% 82.4%	*
	217202		患者報告アウトカム(PRO)の症状改善率 * 期中に指標を開発予定	-	日本緩和医療学会からのデータ提供	-	-	-	-	
	217203	再掲	身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できると感じる患者の割合	2075	患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答のみ)	問35-5. 身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できる。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	46.5%	*
	217204		心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できると感じている患者の割合	3011	患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答のみ)	問35-6. 心のつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できる。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	32.8%	*
	217205		がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3002	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問12. がんと診断されてから治療を始める前の間に、病気のことや療養生活に関して誰かに相談することができましたか。「相談できた」と回答した割合	平成30年度	76.3%	*
	217206		家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	3003	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問30-2. がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分ある。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	47.7%	*
	217207		医療従事者が耳を傾けてくれたと感じた患者の割合	2006	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問20-4. 医療スタッフは、あなた(患者さん)の言葉に耳を傾け、理解しようとしてくれた。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	71.9%	*
	217208		国民の緩和ケアに関する認識	3018	世論調査	R5がん対策に関する世論調査全回答者	問11. がん医療における緩和ケアとは、がんやがんの治療に伴う体と心の痛みをやわらげることです。あなたは、がんに対する緩和ケアはいつから実施されるべきものと思いますか。「がんと診断されたときから」と答えた割合	令和5年度	49.7%	
	217209		国民の医療用麻薬に関する認識	3019	世論調査	R5がん対策に関する世論調査全回答者	問12. あなたは医療用麻薬について、どのように思いますか。(複数回答可)「正しく使用すれば安全だと思う」と答えた割合	令和5年度	43.9%	
妊孕性温存療法										
アウトプット指標	218101		がん・生殖医療の意思決定支援に関する人材育成を実施している拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	がん・生殖医療の意思決定支援に関する人材育成を実施しているがん診療連携拠点病院等(396施設)	令和4年9月1日時点	86.8%	
	218102		がん相談支援センターにおける「妊孕性・生殖機能」に関する相談件数	-	現況報告書	なし	がん相談支援センターにおける「妊孕性・生殖機能」に関する相談件数	令和3年1月1日～令和3年12月31日	2,131件	
	218103		日本がん・生殖医療登録システムJOFRへの登録症例数	-	日本・がん生殖医療学会からのデータ提供	なし	がん・生殖医療登録システムJOFRに登録されている妊孕性温存療法及び温存後生殖補助医療の症例数合計	令和4年度	285件	
中間アウトカム指標	218201		治療開始前に、生殖機能への影響に関する説明を受けたがん患者・家族の割合	2093	患者体験調査、小児患者体験調査	成人:H30患者体験調査40歳未満の回答者 小児:R1小児患者体験調査全回答者	成人:問16. 最初のがん治療が開始される前に、医師からその治療による不妊の影響について説明を受けましたか。「説明があった」と回答した割合 小児:問13. 最初のがん治療が開始される前に、医師からその治療による生殖機能への影響について説明を受けましたか。「説明があった」と回答した割合	成人:平成30年度小児:令和元年度	成人 52% 小児 53.8%	*
	218202		がん・生殖医療に関する臨床研究実施数 * 実施中の研究数または開始数/年	-	厚生労働科学研究成果データベース、AMEDfind、UMIN-CTR、jRCT	-	-	令和4年	14	

分野	#	再掲	指標	3期	データソース	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(ベースライン値)	比較上留意が必要な指標
<b>希少がん、難治性がん対策の推進</b>										
<b>希少がん対策</b>										
アウトプット指標	220101		希少がんホットラインへの問い合わせ数	-	国立がん研究センターからのデータ提供	なし	以下で実施している希少がんホットラインへの問い合わせ件数 国立がん研究センター、九州大学病院、大阪国際がんセンター 2022/4/1-2023/3/31、名古屋大学医学部付属病院2022/8/1-2023/3/31	令和4年度	3521件	
	220102		「がん情報サービス」または「希少がんセンター」に掲載された希少がんの数および当該ページへのPV数	-	国立がん研究センターからのデータ提供	なし	【がん情報サービス】 がん情報サービスに掲載された希少がんページ数 「がん情報サービス」に掲載された希少がんの新規・更新されたページ数 「がん情報サービス」に掲載された希少がんのPV数 【希少がんセンター】 「希少がんセンター」に掲載された希少がんページ数 「希少がんセンター」に掲載された希少がん新規ページ数 「希少がんセンター」に掲載された希少がんのPV数	【がん情報サービス】 令和5年3月31日時点 令和2年4月1日～令和5年3月31日 令和4年(2022年)4月1日～令和5年(2023年)3月31日 【希少がんセンター】 令和5年3月31日時点 令和2年4月1日～令和5年3月31日 令和4年4月1日～令和5年3月31日	【がん情報サービス】 「がん情報サービス」に掲載された希少がんコンテンツ数：68種 「がん情報サービス」に掲載された希少がん新規・更新ページ数：90種 「がん情報サービス」に掲載された希少がんのPV数：6,480,669PV 【希少がんセンター】 「希少がんセンター」に掲載された希少がんページ数：126種 「希少がんセンター」に掲載された希少がん新規ページ数：618種 「希少がんセンター」に掲載された希少がんのPV数：4,170,904PV	
	220103		希少がん診療を積極的に受け入れている拠点病院等の数と他施設へ紹介する拠点病院等の数	-	現況報告書	-	-	令和3年1月1日～令和3年12月31日	別添	
	220104		中央病理コンサルテーションの数	-	国立がん研究センターからのデータ提供	なし	国立がん研究センターで受けた2022年4月～2023年3月の病理コンサルト件数	令和4年度	800件	
	220105		希少がんに対する臨床試験を実施している拠点病院等の数	-	現況報告書	-	-	令和3年1月1日～令和3年12月31日	別添	
	220106		希少がんに関するガイドラインの数（がん種に対するガイドラインの作成率）	-	Minds登録数	なし	Mindsガイドライブラリにおいて、該当の希少がん種を表題とするガイドラインがある、あるいは該当の希少がん種についてガイドライン内に章立ての記載がある希少がん種の数と、希少がん35種全体のうちの作成率	2024年9月時点算出	数 23 作成率 65.7%	
中間アウトカム指標	220201		治療スケジュールの見通しに関する情報を十分得ることができた希少がん患者の割合	-	患者体験調査	H30患者体験調査希少がん暫定義該当回答者	問 20-1. 治療スケジュールの見通しに関する情報を十分得ることができた。「とても思う、ある程度思う」と回答した割合	平成30年度	75.7%	*
	220202		希少がん診療を積極的に受け入れている拠点病院等における治療開始数	-	現況報告書+院内がん登録	がん診療連携拠点病院（456施設）	各病院が現況報告書で「当該がんを特に専門とする医師がおり、周囲の施設から患者を積極的に集めている」と回答したがん種のうち希少がんの初回治療症例数を院内がん登録でカウント	令和4年度+2021年症例	80,372	
	220203		希少がん患者の初診から診断までの時間、診断から治療開始までの時間	2082	患者体験調査	H30患者体験調査希少がん暫定義該当回答者	H30 問10. なんらかの症状や検診で異常があって初めて病院・診療所を受診した日から、医師からがんと説明（確定診断）されるまで、おおよそどのくらいの時間がかかりましたか。「2週間未満、2週間以上1ヶ月未満」と回答した人の割合 問 11. 医師からがんと説明（確定診断）されてから、最初の治療が始まるまで、おおよそどのくらいの時間がかかりましたか。「2週間未満、2週間以上1ヶ月未満」と回答した人の割合	平成30年度	初診から診断までの時間：66.4%、診断から治療開始までの時間：72.3%	*
<b>難治性がん対策</b>										
アウトプット指標	220107		難治性がん*8に関するHP等の整備を行っている拠点病院等の数	-	現況報告書	-	-	令和3年1月1日～令和3年12月31日	455	
	220108		難治性がん*8診療を積極的に受け入れている拠点病院等の数と他施設へ紹介する拠点病院の数	-	現況報告書	-	-	令和3年1月1日～令和3年12月31日	積極的に受け入れている拠点病院等の数:359 他施設へ紹介する拠点病院の数:46	
	220109		難治性がん*8に対して臨床試験を行っている拠点病院等の数	-	現況報告書	-	-	令和3年1月1日～令和3年12月31日	165	
中間アウトカム指標	220204		難治性がん*8診療を積極的に受け入れている拠点病院等における治療開始数	-	現況報告書+院内がん登録	がん診療連携拠点病院（456施設）	現況報告書で肺がんに関して「当該がんを特に専門とする医師がおり、周囲の施設から患者を積極的に集めている」と回答した病院の初回治療症例数を院内がん登録でカウント	令和4年度+2021年症例	21243	

分野	#	再掲	指標	3期	データソース	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(ベースライン値)	比較上留意が必要な指標
<b>小児がん・AYA世代のがん対策</b>										
<b>小児がん対策</b>										
アウトプット指標	230101		小児がん拠点病院等で小児がんの薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師の数	-	現況報告書(小児がん)	なし	小児がん拠点病院等で小児がんの薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師の数	令和4年9月1日時点	727人	
	230102		小児がん拠点病院等で小児の手術に携わる、小児がん手術に関して専門的な知識及び技術を有する医師の数	-	現況報告書(小児がん)	なし	小児がん拠点病院等で小児の手術に携わる、小児がん手術に関して専門的な知識及び技術を有する医師の数	令和4年9月1日時点	593人	
	230103		小児がん拠点病院等で小児がんの放射線療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の数	-	現況報告書(小児がん)	なし	小児がん拠点病院等で小児がんの放射線療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の数	令和4年9月1日時点	566人	
	230104		小児がん拠点病院等における小児がん看護に関する専門的な知識や技能を習得している看護師の数	-	現況報告書(小児がん)	なし	小児がん拠点病院等における小児がん看護に関する専門的な知識や技能を習得している看護師の数	令和4年9月1日時点	204人	
	230105		小児がん拠点病院等における医療環境にある子どもや家族への療養支援に関する専門的な知識及び技能を有する者の数	-	現況報告書(小児がん)	なし	小児がん拠点病院等における医療環境にある子どもや家族への療養支援に関する専門的な知識及び技能を有する者の数	令和4年9月1日時点	223人	
	230106		都道府県協議会で長期フォローアップの連携体制について議論している都道府県数	-	現況報告書	なし	都道府県協議会で長期フォローアップの連携体制について議論している都道府県数	令和4年4月1日～令和5年3月31日	25都道府県	
	230107		(参考) 長期フォローアップ外来を設置している小児がん拠点病院等の数	-	現況報告書(小児がん)	なし	長期フォローアップ外来を設置している小児がん拠点病院等の数	令和3年1月1日～令和3年12月31日	123施設	
中間アウトカム指標	230201		小児がん拠点病院で治療を受けた小児がん患者の割合*11	-	全国がん登録+院内がん登録	最新は、2018-2019年院内がん登録症例に関する下記報告書のP11、12の数値や、プレスリリースの表1から計算可能。この数値は小児がん拠点病院連絡協議会などでも報告しております。 報告書： <a href="https://ganjoho.jp/public/qa_links/report/hosp_c/pdf/2018_2019_icccaya.pdf">https://ganjoho.jp/public/qa_links/report/hosp_c/pdf/2018_2019_icccaya.pdf</a> プレスリリース： <a href="https://www.ncc.go.jp/jp/information/pr_release/2023/1115/index.html">https://www.ncc.go.jp/jp/information/pr_release/2023/1115/index.html</a>	小児がん拠点病院15施設で治療を開始された小児がん患者は、1,560/4,688	平成30～令和元年	33.3%	
	230202		がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分あると思う小児がん患者の割合	-	小児患者体験調査	R1小児患者体験調査回答者全体	問40-2. がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分ある。[とてもそう思う、ある程度そう思う]と回答した割合	令和元年度	39.7%	*
	230203		長期フォローアップについて知っている小児がん患者の割合	-	小児患者体験調査	R1小児患者体験調査全回答者	問44. 長期フォローアップについて、知っていますか[よく知っている、ある程度知っている]と回答した人の割合	令和元年度	52.9%	
	230204		小児がん拠点病院において実施されている小児がんに関する治験数	-	現況報告書(小児がん)	なし	小児がん拠点病院において実施されている小児がんに関する治験数	令和3年1月1日～令和3年12月31日	84件	
<b>AYA世代のがん対策</b>										
アウトプット指標	230108		多職種からなるAYA支援チームを設置している拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	多職種からなるAYA支援チームを設置していると回答した拠点病院等(105施設)	令和4年9月1日時点	23.0%	
中間アウトカム指標	230205		がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じる若年がん患者の割合	3002	患者体験調査	H30患者体験調査40歳未満の回答者	問12. がんと診断されてから治療を始める前の間に、病気のことや療養生活に関して誰かに相談することができましたか。「相談できた」と回答した割合	平成30年度	89.0%	*
	230206		外見の変化に関する悩みを医療スタッフに相談できた若年患者の割合	2076	患者体験調査	H30患者体験調査40歳未満の回答者	問22. がん治療による外見の変化(脱毛や皮膚障害などを含む)に関する悩みを誰かに相談できましたか。「相談できた」と回答した割合	平成30年度	46.3%	*
	230207	再掲	治療開始前に、生殖機能への影響に関する説明を受けたがん患者・家族の割合	2093	患者体験調査、小児患者体験調査	成人：H30患者体験調査40歳未満の回答者 小児：R1小児患者体験調査全回答者	成人：問16. 最初のがん治療が開始される前に、医師からその治療による不妊の影響について説明を受けましたか。「説明があった」と回答した割合 小児：問13. 最初のがん治療が開始される前に、医師からその治療による生殖機能への影響について説明を受けましたか。「説明があった」と回答した割合	成人 平成30年度小児 令和元年度	52% 53.8%	*
<b>高齢者のがん対策</b>										
アウトプット指標	240101		当該がん医療圏において、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について検討を行っている拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	当該がん医療圏において、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について検討を行っている拠点病院等(445施設)	令和4年9月1日時点	97.6%	
	240102		意思決定能力を含む機能評価を行い、各種ガイドラインに沿って、個別の状況を踏まえた対応をしている拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	意思決定能力を含む機能評価を行い、各種ガイドラインに沿って、個別の状況を踏まえた対応をしていると回答した拠点病院等(454施設)	令和4年9月1日時点	99.6%	
中間アウトカム指標	240201		医師・看護師・介護職員など医療者同士の連携は良かったと回答した人の割合	-	遺族調査	2019-2020年遺族調査全回答者	問13k. 医師・看護師・介護職員など医療者どうしの連携は良かった、回答選択肢「4 ややそう思う～6 非常にそう思う」と回答した割合	令和元～2年	79.4%	
	240202		患者と医師間で最期の療養場所に関する話し合いがあったと回答した人の割合	-	遺族調査	2019-2020年遺族調査全回答者	問22c. 患者さまがお亡くなりになる1カ月前頃までに、最期をどこで過ごすかについて、患者さまは主治医と十分に話し合いができましたか、回答選択肢「3 そう思う～4 とてもそう思う」と回答した割合	令和元～2年	35.7%	*
<b>新規医薬品、医療機器及び医療技術の速やかな医療実装</b>										
アウトプット指標	250101		臨床試験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口を設置している拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	臨床試験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口を設置しているがん診療連携拠点病院等(352施設)	令和4年9月1日時点	77.2%	
中間アウトカム指標	250201		がんに関する臨床研究数	-	PMDA	-	-	2020年度	219	

分野	#	再掲	指標	3期	データソース	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(ベースライン値)	比較上留意が必要な指標
<b>3. がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築</b>										
分野別アウトカム指標	300001		がん相談支援センターを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合	-	患者体験調査	H30患者体験調査問31-aで、がん相談支援センターを「利用したことがある」とした回答者	問31-a9.がん相談支援センターを利用してどの程度役に立ったと思いますか「とても役に立った、ある程度役に立った」と回答した割合	平成30年度	73.00%	*
	300002		ピアサポートを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合	-	患者体験調査	H30患者体験調査問32-aで、ピアサポートを「利用したことがある」とした回答者	問32-a9.ピアサポートを利用してどの程度役に立ったと思いますか「とても役に立った、ある程度役に立った」と回答した割合	平成30年度	73.6%	*
	300003	再掲	家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	3022	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問30-2.がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分ある。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	47.7%	*
	300004	再掲	治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合	-	患者体験調査、小児患者体験調査	成人：H30患者体験調査全回答者 小児：R1小児患者体験調査全回答者	成人・小児 問15-1.「がん治療」を決めるまでの間に医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた。[とてもそう思う、ある程度そう思う]と回答した患者の割合	成人 平成30年度小児 令和元年度	75% 74.4%	*
	300005		がんの新しい治療法に関する情報の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあると思う人の割合	-	世論調査	R5がん対策に関する世論調査全回答者	問8.インターネットなどで入手できるがんの治療法に関する情報の中には、手術や抗がん剤だけではなくさまざまな新しい治療法に関する情報があります。あなたは、これらの情報の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあると思いますか。「あると思う」「ある程度あると思う」と答えた割合	令和5年度	90.1%	
	300006		望んだ場所で過ごせたがん患者の割合	3034	遺族調査	2019-2020年遺族調査全回答者	問18d.死亡前1か月間、望んだ場所で過ごせた、回答選択肢「5 ややそう思う～7 とてもそう思う」と回答した割合	令和元～2年	47.9%	
	300007	再掲	在宅で亡くなったがん患者の医療に対する満足度	3033	遺族調査のサブグループ解析(全死亡のうち在宅死亡)	2019-2020年遺族調査回答者のうち、自宅死亡者	問14. お亡くなりになった場所で受けた医療は全般的に満足でしたが、回答選択肢「4 やや満足～6 非常に満足」と回答した割合	令和元～2年	79.1%	
	300008		治療費用の負担が原因で、がんの治療を変更・断念したがん患者の割合	-	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問18. 治療費用の負担が原因で、がんの治療を変更・断念したことがありますか。「ある」と回答した割合	平成30年度	4.90%	*
	300009		金銭的負担が原因で生活に影響があったがん患者の割合	-	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問19. 病院で医療を受けるために必要な金銭的負担が原因で、次に挙げたようなことがありましたか。(当てはまるものすべてに○) いずれかの選択肢を選択あるいは「その他」に記載のある回答者(=「上記のようなことはなかった」以外の回答者)の割合	平成30年度	26.9%	*
	300010	再掲	がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3002	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問12. がんと診断されてから治療を始める前の間に、病気のことや療養生活に関して誰かに相談することができましたか。「相談できた」と回答した割合	平成30年度	76.3%	*
	300011		身体的・精神的な苦痛により日常生活に支障を来しているがん患者の割合	3014	患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答のみ)	問36-5. がんやがん治療にともなう身体の苦痛や気持ちのつらさにより、日常生活を送る上で困っていることがある。「ややそう思う、そう思う」と回答した患者の割合	平成30年度	18.70%	
	300012		がん患者の自殺数	3050	革新的がん自殺研究推進プログラム	なし	2016年に日本でがんと診断された患者 1,070,876名(全国がん登録)のうち、診断後1年間での自殺者数	2016年	449名	
	300013		がんであることを話せる割合	-	世論調査	R5がん対策に関する世論調査全回答者	問13. あなたががんと診断されたら、家族や友人などだれか身近な人にがんのことを話せると思いますか。「話せると思う」「どちらかといえば話せると思う」と答えた割合	令和5年度	93.2%	
	300014		がん治療前に就学していた者のうち、「がん治療のために患者が転校・休学・退学したと回答した人」以外の割合	-	小児患者体験調査	R1小児患者体験調査問35.で診断された時、就学していたと回答した人	問36(1). 教育について、がん治療のために以下のようなことがありましたか。{小学校; 中学校; 高等学校; 特別支援学校; 大学(短期大学を含む); その他}を{転校(籍・副籍を含みます); 休学; 退学; その他}している(いた)、について、「転校・休学・退学した」と回答した人以外の割合	令和元年度	12.5%	*
	300015		人生をまっとうしたと感じていた患者の割合	-	遺族調査のサブグループ解析	2019-2020年遺族調査回答者のうち、死亡年齢75歳以上の者	問18f. 死亡前1か月間の状況について、患者さまは人生をまっとうしたと感じていた、回答選択肢「5 ややそう思う～7 とてもそう思う」と回答した割合	令和元～2年	53.50%	

分野	#	再掲	指標	3期	データソース	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(ベースライン値)	比較上留意が必要な指標
<b>相談支援及び情報提供</b>										
<b>相談支援について</b>										
アウトプット指標	311101		がん相談支援センターでの自施設・他施設からの新規相談件数(全国の拠点病院等での総数)	-	現況報告書	なし	がん相談支援センターでの自施設・他施設からの新規相談件数	令和3年1月1日～令和3年12月31日	328,392件	
	311102		相談員研修を受講したがん相談支援センターの相談員の数	-	現況報告書	なし	相談員研修を受講したがん相談支援センターの相談員の数	令和4年9月1日時点	3,931人	
	311103		上記の内、フォローアップ研修を受講したがん相談支援センターの相談員の数	-	現況報告書	なし	相談員研修を受講したがん相談支援センターの相談員の数、フォローアップ研修を受講したがん相談支援センターの相談員の数	令和4年9月1日時点	1,250人	
	311104		拠点病院等1施設あたりの連携している患者団体の数	-	現況報告書	なし	がん診療連携拠点病院等が連携している患者団体の数の平均	令和5年9月1日時点	3.3団体	
	311105		拠点病院等1施設あたりの体験を語り合う場の開催数	-	現況報告書	なし	がん患者及びその家族が体験を語り合う場の開催数の平均	令和3年1月1日～令和3年12月31日	8.1回	
中間アウトカム指標	311201		がん相談支援センターについて知っているがん患者の割合	3023	患者体験調査、小児患者体験調査	H30患者体験調査全回答者 小児：R1小児患者体験調査全回答者	成人：問31. がん相談支援センターを知っていますか。「知っている」と回答した割合 小児：問41. がん相談支援センターを知っていますか。「知っている」と回答した割合	成人 平成30年度小児 令和元年度	66.4% 66.4%	
	311202		治療法や病院についてがん相談支援センターで情報入手しようと思う人の割合	-	世論調査	R5がん対策に関する世論調査全回答者	問6. あなたは、がんと診断された場合、がんの治療法や病院に関する情報について、どこから入手しようと思いますか。(複数回答可)「がん診療連携拠点病院の相談窓口であるがん相談支援センター」と答えた割合	令和5年度	43.8%	
	311203	再掲	がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3021	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問12. がんと診断されてから治療を始める前の間に、病気のことや療養生活に関して誰かに相談することができましたか。「相談できた」と回答した割合	平成30年度	76.3%	*
	311204		ピアサポーターについて知っているがん患者の割合	3024	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問32. ピアサポートが何かを知っていますか。「知っている」と回答した割合	平成30年度	27.3%	*
<b>情報提供について</b>										
アウトプット指標	312101		がん情報サービスにアクセスした件数	-	国立がん研究センターからのデータ提供	なし	がん情報サービスの年間ページビュー数(2022年4月1日～2023年3月31日)	令和4年度	51,646,076	
	312102		がん情報サービスにおけるコンテンツ更新数	-	国立がん研究センターからのデータ提供	なし	がん情報サービス「一般向け」のページの248コンテンツ(2023年12月)のうち、過去3年間(2020年4月1日～2023年3月31日)に更新した、のべ更新コンテンツ数	令和2～4年度	80.3/年(241)	
	312103		がん情報サービスにおける点字資料、音声資料数、資料の更新数	3026	国立がん研究センターからのデータ提供	なし	がん情報サービスに掲載した音声資料数、新規掲載・更新された資料数 がん情報サービスの資料で点字資料がサビエに新規掲載・更新された数	令和5年4月1日令和2年4月～令和5年4月	がん情報サービスに掲載している音声資料：158コンテンツ 新規掲載・更新した音声資料：57.3コンテンツ/年(172コンテンツ) 点字資料はがん情報サービスへの掲載なし がん情報サービスのコンテンツで、「サビエ」(※)に新規掲載・更新された掲載された点字資料数：22 ※「サビエ」：視覚障害者等向けの点字、音声データなどで提供するネットワーク。	
中間アウトカム指標	312201		治療法や病院についてがん情報サービスで情報入手しようと思う人の割合	-	世論調査	R5がん対策に関する世論調査全回答者	問6. あなたは、がんと診断された場合、がんの治療法や病院に関する情報について、どこから入手しようと思いますか。(複数回答可)「国立がん研究センターのウェブサイト「がん情報サービス」と答えた割合	令和5年度	22.8%	
	312202		がん情報サービスにアクセスし、探していた情報にたどり着くことができた人の割合	3025	がん情報サービスによる調査(国立がん研究センターからのデータ提供)	2023年3月20日～4月3日実施アンケート(該当項目の有効回答604)アンケートの回答者	探していた情報にたどり着くことができた人	令和5年3月20日～4月3日	87.1%	
	312203	再掲	がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3021	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問12. がんと診断されてから治療を始める前の間に、病気のことや療養生活に関して誰かに相談することができましたか。「相談できた」と回答した割合	平成30年度	76.3%	*
<b>社会連携に基づく緩和ケア等の患者支援</b>										
アウトプット指標	320101		専門医療機関連携薬局(傷病の区分：がん)の認定数	-	厚生労働省調べ	なし	専門医療機関連携薬局(傷病の区分：がん)の認定数	令和5年3月31日時点	141施設	
	320102		地域緩和ケア連携調整員研修受講者数	-	地域緩和ケアネットワーク構築事業	-	-	令和4年度(まで)	計57名(累計1,335)	
	320103		診療情報提供料(Ⅱ)の算定数	-	NDB	なし	診療情報提供料(2)	令和2年度	算定回数 23,381 患者数 21,958	
中間アウトカム指標	320201		がん治療前に、セカンドオピニオンに関する話を受けたがん患者の割合	3032	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問13. がんの治療が始まる前に、担当医からセカンドオピニオンについて話がありましたか。「話があった」と回答した割合	平成30年度	34.9%	*
	320202	再掲	患者と医師間で最期の療養場所に関する話し合いがあった	-	遺族調査	2019-2020年遺族調査全回答者	問22c. 患者さまがお亡くなりになる1か月前頃までに、最期をどこで過ごすかについて、患者さまは主治医と十分に話し合いができましたか、回答選択肢「3 そう思う～4 とてもそう思う」と回答した割合	令和元～2年	35.7%	

分野	#	再掲	指標	3期	データソース	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(ベースライン値)	比較上留意が必要な指標
<b>がん患者等の社会的な問題への対策(サバイバーシップ支援)</b>										
<b>就労支援について</b>										
アウトプット指標	331101		拠点病院等のがん相談支援センターにおける就労に関する相談件数	3045	現況報告書	なし	がん相談支援センターにおける就労に関する相談件数	令和3年1月1日～令和3年12月31日	27,112件	
	331102		療養・就労両立支援指導料の算定件数* *がんについて	-	NDB	なし	療養・就労両立支援指導料(初回),療養・就労両立支援指導料(2回目以降),療養・就労両立支援指導料(初回)(情報通信機器),療養・就労両立支援指導料(2回目以降)(情報通信機器)合算	令和2年度	算定回数 677 患者数 467	
	331103		拠点病院等における就労の専門家による相談会の回数	-	現況報告書	なし	がん診療連携拠点病院等における就労の専門家による相談会の回数	令和4年1月1日～令和4年12月31日	5342回	
	331104		ハローワークと連携した就職支援をおこなっている拠点病院等の割合	3044	長期療養者就職支援事業報告	がん診療連携拠点病院等(456施設)	ハローワークと連携した就職支援をおこなっているがん診療連携拠点病院等(235施設)	令和5年4月1日時点	51.5%	
	331105		長期療養者就職支援事業を活用した就職者数 *がんについて	-	長期療養者就職支援事業報告	なし	就職による支援終了者数(がん等の悪性腫瘍)	令和4年度	2,224人	
	331106		両立支援コーディネーター研修修了者数	-	事業報告(労働者健康安全機構)	なし	両立支援コーディネーター基礎研修修了者数	平成27年度から令和4年度まで	17,695人	
中間アウトカム指標	331201		治療開始前に、就労継続について説明を受けたがん患者の割合	3041	患者体験調査	H30患者体験調査問24で「診断時、収入のある仕事をしていました」と回答したがん患者	問28. 治療を始める前に就労の継続について、病院の医療スタッフから話がありましたか。「話があった」と回答した割合※回答項目は「あった」、「なかった」、「わからない」の3点。回答者のうち、「わからない」を除外して集計。	平成30年度	39.5%	*
	331202		がんと診断後も仕事を継続していたがん患者の割合	3042	患者体験調査	H30患者体験調査問24で「診断時、収入のある仕事をしていました」と回答したがん患者	問29(1). がんと診断された時のお仕事について、がん治療のために以下のようなことがありましたか。「上記(休職・休業や退職・廃業)のようなことはなかった」と回答した人の割合	平成30年度	26.0%	
	331203		退職したがん患者のうち、がん治療の開始前までに退職した者の割合	3043	患者体験調査	H30患者体験調査問29(1)で「退職・廃業した」と回答した人(無回答除外)	問29(3)「がんの疑いがあり診断が確定する前、がん診断直後、診断後、初回治療を待っている間」と回答した人の割合	平成30年度	56.80%	
	331204		治療と仕事を両立するための社内制度等を利用した患者の割合	3046	患者体験調査	H30患者体験調査問24で「診断時、収入のある仕事をしていました」と回答したがん患者	R5 問35. 治療と仕事を両立するために利用したもので、お答えください。(当てはまるものすべてに○) いずれかの選択肢を選択あるいは「その他」に記載のある回答者。(=「上記のものは何も利用していない」以外の回答の割合)	平成30年度	36.1%	*
	331205		治療と仕事を両立するための勤務上の配慮がなされているがん患者の割合	3047	患者体験調査	H30患者体験調査問24で「診断時、収入のある仕事をしていました」と回答したがん患者	問26. がんの治療中に、職場や仕事上の関係者から治療と仕事を両方続けられるような勤務上の配慮があった。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	65.0%	*
<b>アピアランスケアについて</b>										
アウトプット指標	332101		アピアランスケア研修(e-learning)修了者数	-	国立がん研究センターアピアランス支援センターからのデータ提供	なし	アピアランスケア研修(e-learning)2023年度修了者数	令和5年度	アピアランスケアe-learning:879名 アピアランスケア応用編:35名	
	332102		拠点病院等におけるアピアランスに関する相談件数	-	現況報告書	なし	がん診療連携拠点病院等におけるアピアランスに関する相談件数	令和3年1月1日～令和3年12月31日	83,684件	
中間アウトカム指標	332201	再掲	外見の変化に関する悩みを医療スタッフに相談できたがん患者の割合	3048	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問22. がん治療による外見の変化(脱毛や皮膚障害などを含む)に関する悩みを誰かに相談できましたか。「相談できた」と回答した割合	平成30年度	28.30%	*
<b>がん診断後の自殺対策について</b>										
アウトプット指標	333101	再掲	緩和ケア研修修了者数	3017	がん等における新たな緩和ケア研修等事業	なし	緩和ケア研修修了者数	令和4年度まで	171,779人	
	333102		自殺リスクに関する研修を実施した拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	自殺リスクに関する研修を実施したがん診療連携拠点病院等(136施設)	令和4年9月1日時点	29.8%	
	333103	再掲	特定疾患治療管理料 がん患者指導管理料算定数	-	NDB	なし	がん患者指導管理料(共同診療方針等を文書等で提供),がん患者指導管理料(共同診療方針等を文書等で提供・情報通信機器)合算	令和2年度	算定回数 143,280 患者数 141,386	
	333104		特定疾患治療管理料 がん患者指導管理料口算定数	-	NDB	なし	がん患者指導管理料(心理的不安軽減のため面接),がん患者指導管理料(心理的不安軽減のため面接・情報通信機器)合算	令和2年度	算定回数 197,679 患者数 114,774	
中間アウトカム指標	333201	再掲	心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できると感じている患者の割合	3011	患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答のみ)	問35-6. 心のつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できる。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	32.8%	*
	333202	再掲	精神的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3013	患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答のみ)	問36-4. がんやがん治療に伴い、気持ちがつらい「ややそう思う、そう思う」と回答した割合	平成30年度	24%	
	333203	再掲	療養生活の最終段階において、精神的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3016	遺族調査	2019-2020年遺族調査全回答者	問18c. 死亡前1か月間、おだやかな気持ちで過ごせた、回答選択肢「1 全くそう思わない～4 どちらともいえない」と回答した割合	令和元～2年	42.1%	
	333204	再掲	身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できると感じる患者の割合	2075	患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答のみ)	問35-5. 身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できる。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	46.5%	*
	333205	再掲	身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3012	患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答のみ)	問36-2. がんやがん治療に伴う身体の苦痛がある。(身体の苦痛とは、痛みに限らず、吐き気、息苦しさ、だるさ、しびれ、かゆみなどの、体のつらさを含みます)「ややそう思う、そう思う」と回答した患者の割合	平成30年度	34.7%	*
	333206	再掲	療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3015	遺族調査	2019-2020年遺族調査全回答者	問18b. 死亡前1か月間、からだの苦痛が少なく過ごせた、回答選択肢「1 全くそう思わない～4 どちらともいえない」と回答した割合	令和元～2年	46.9%	
<b>その他の社会的な問題について</b>										
アウトプット指標	334101		情報取得や意思疎通に配慮が必要な者に対するマニュアルを作成している拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(461施設)	情報取得や意思疎通に配慮が必要な者に対するマニュアルを作成しているがん診療連携拠点病院等(179施設)	令和5年9月1日時点	38.8%	
	334102	再掲	拠点病院等で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数(総数)	-	現況報告書	なし	がん診療連携拠点病院等で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数	令和4年1月1日～令和4年12月31日	1,717回	
中間アウトカム指標	334201		がんと診断されてから周囲に不必要な気を遣われている割合	-	患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答のみ)	問35-3. がんと診断されてから周囲に不必要に気を遣われていると感じる。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	12.3%	*
	334202		(家族以外の)周囲の人からがんにに対する偏見を感じる割合	-	患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答のみ)	問35-4. (家族以外の)周囲の人からがんにに対する偏見を感じる。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	5.3%	*

分野	#	再掲	指標	3期	データソース	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(ベースライン値)	比較上留意が必要な指標
ライフステージに応じた療養環境への支援										
小児・AYA世代について										
アウトプット指標	341101		小児がん拠点病院等のがん相談支援センターにおける、小児・AYA世代のがん患者の発育及び療養上の相談への対応・支援のうち、教育に関する相談件数	-	現況報告書(小児がん)	なし	小児がん拠点病院等のがん相談支援センターにおける、小児・AYA世代のがん患者の発育及び療養上の相談への対応・支援のうち、教育に関する相談件数	令和3年1月1日～令和3年12月31日	2232件	
	341102		国立がん研究センターによる「がん相談支援センター相談員基礎研修」(1)(2)を受講後、国立成育医療研究センターが実施する「小児がん相談員専門研修」を修了し、小児がん拠点病院等に配置されている者の数	-	現況報告書(小児がん)	なし	国立がん研究センターによる「がん相談支援センター相談員基礎研修」(1)(2)を受講後、国立成育医療研究センターが実施する「小児がん相談員専門研修」を修了し、小児がん拠点病院等に配置されている者	令和4年9月1日時点	230人	
	341103		小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会参加人数	4023	小児・AYA世代の長期フォローアップ体制整備事業事業報	なし	小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会参加人数	令和4年度(まで)	250人(累計1,196人)	
	341104		長期フォローアップ外来を設置している小児がん拠点病院等の数	-	現況報告書(小児がん)	なし	長期フォローアップ外来を設置している小児がん拠点病院等	令和4年9月1日時点	123施設	
	341105		小児がん拠点病院等のがん相談支援センターにおける、小児・AYA世代のがん患者に対する就労に関する相談件数	-	現況報告書(小児がん)	なし	小児がん拠点病院等のがん相談支援センターにおける、小児・AYA世代のがん患者に対する就労に関する相談件数	令和3年1月1日～令和3年12月31日	99件	
	341106		小児がん拠点病院が連携している、小児がんに関する患者団体の数	-	現況報告書(小児がん)	なし	小児がん拠点病院が連携している、小児がんに関する患者団体の数	令和4年9月1日時点	78団体	
中間アウトカム指標	341201		治療開始前に教育の支援等について医療スタッフから話があったと回答した人の割合	3052	小児患者体験調査	R1小児患者体験調査問35で診断された時就学していたと回答した人	問37.治療を始める前に教育の支援等について、病院の医療スタッフから話がありましたか。「あった」と回答した人の割合	令和元年度	68.1%	
	341202		がん治療のため転校・休学・退学したと回答した人のうち、患者の治療中に何らかの就学支援制度を利用したと回答した人の割合	-	小児患者体験調査	R1小児患者体験調査問35で診断された時就学していたと回答し、問36(1)教育について、がん治療のために学校を「転校」；休学；退学；その他」の回答を選択した人	問36(2).転校・休学・退学した方にお尋ねします。治療中に利用したのものについてお答えください(当てはまるものすべてに○)。回答選択肢：{原籍校の教員が病院や自宅等に来て授業を受けた；病院内等に設置された特別支援学級(病室への訪問を含む)で授業を受けた；ICT機器などを活用し、遠隔で授業を受けた；学習支援員やボランティアによる支援等で対面での学習支援を受けた；原籍校で録画された授業の視聴や原籍校からの課題や補習を受けた；家庭教師などを病院へ派遣し、学習した}の何らかの回答を選択した人の割合	令和元年度	75.9%	
	341203		治療中に学校や教育関係者から治療と教育の両立に関する支援を受けた家族の割合	3053	小児患者体験調査	R1小児患者体験調査問35で診断された時就学していたと回答した人	問39.患者さんの治療中に、学校や教育関係者から治療と教育を両方続けられるような配慮があった。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した人の割合	令和元年度	76.6%	*
	341204		長期フォローアップについて知っていると回答した人の割合	-	小児患者体験調査	R1小児患者体験調査全回答者	問44.長期フォローアップについて、知っていますか。「よく知っている、ある程度知っている」と回答した人の割合	令和元年度	52.9%	
	341205	再掲	治療開始前に、就労継続について説明を受けたがん患者の割合	-	患者体験調査	H30患者体験調査40歳未満の回答者問26「診断時、収入のある仕事をしていました」と回答したがん患者	問28.治療を始める前に就労の継続について、病院の医療スタッフから話がありましたか。「あった」と回答した割合	平成30年度	54.90%	*
	341206		つらい症状には速やかに対応してくれたと思うと回答した人の割合	-	小児患者体験調査	R1小児患者体験調査問6で「治療した」と回答した人	問20-5.つらい症状にはすみやかに対応してくれた。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	令和元年度	83.30%	*
高齢者について										
アウトプット指標	342101	再掲	当該がん医療圏において、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について検討を行っている拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	当該がん医療圏において、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について検討を行っている拠点病院等(445施設)	令和4年9月1日時点	97.6%	
	342102		介護支援等連携指導料の算定数(がん患者に限定)	-	NDB	なし	介護支援等連携指導料	令和2年度	算定回数82,935 患者数66,661	
	342103		退院時共同指導料1の算定数(がん患者に限定)	-	NDB	なし	退院時共同指導料1(在宅療養支援診療所)	令和2年度	算定回数12,374 患者数12,053	
	342104	再掲	意思決定能力を含む機能評価を行い、各種ガイドラインに沿って、個別の状況を踏まえた対応をしている拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	意思決定能力を含む機能評価を行い、各種ガイドラインに沿って、個別の状況を踏まえた対応をしていると回答した拠点病院等(454施設)	令和4年9月1日時点	99.6%	
中間アウトカム指標	342201		介護をしたことで、全体的に負担感が大きかったと回答した割合	-	遺族調査のサブグループ解析	2019-2020年遺族調査回答者のうち、死亡年齢75歳以上の者	問33a.介護をしたことで、全体的に負担感が大きかった、回答選択肢「5 ややそう思う～7 とてもそう思う」と回答した割合	令和元～2年	41.60%	
	342202		医師・看護師・介護職員など医療者同士の連携はよくなったと回答した割合	-	遺族調査のサブグループ解析	2019-2020年遺族調査回答者のうち、死亡年齢75歳以上の者	問13k.医師・看護師・介護職員など医療者どうしの連携は良かった、回答選択肢「4 ややそう思う～6 非常にそう思う」と回答した割合	令和元～2年	79.10%	
	342203		患者と医師間で最期の療養場所に関する話し合いがあったと回答した割合	-	遺族調査のサブグループ解析	2019-2020年遺族調査回答者のうち、死亡年齢75歳以上の者	問22c.患者さまがお亡くなりになる1カ月前頃までに、最期をどこで過ごすかについて、患者さまは主治医と十分に話し合いができましたか、回答選択肢「3 そう思う～4 とてもそう思う」と回答した割合	令和元～2年	32.90%	*

分野	#	再掲	指標	3期	データソース	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(ベースライン値)	比較上留意が必要な指標
<b>4. これらを支える基盤の整備</b>										
<b>全ゲノム解析等の新たな技術を含む更なるがん研究の推進</b>										
アウトプット指標	410101		「革新的がん医療実用化研究事業」事後評価	-	AMED	なし	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED) の「革新的がん医療実用化研究事業」の事後評価	令和4年度	大変優れている(計画を超えて大変進捗): 5課題 優れている(計画を超えて進捗): 47課題 良い(計画どおり進捗): 50課題 やや良い(計画どおりに進捗していない部分があるが、概ね計画どおりに進捗): 14課題 良いとも悪いともいえない(計画どおりに進捗していない部分がある): 3課題	
	410102		日本臨床研究実施計画・研究概要公開システム(jRCT)に登録されたゲノム変異にもとづくがんを対象とした臨床研究の数	-	jRCT、AMED口	なし	AMEDの疾患領域「がん」の各事業の研究開発課題のうち、ゲノム変異にもとづくがんを対象とした研究課題の中で、日本臨床研究実施計画・研究概要公開システム(jRCT)に登録された臨床研究の数	令和4年度	14件	
	410103		日本臨床研究実施計画・研究概要公開システム(jRCT)に登録されたAMED疾患領域(がん)の研究数	-	jRCT、AMED口	なし	AMEDの疾患領域「がん」の各事業の研究開発課題のうち、日本臨床研究実施計画・研究概要公開システム(jRCT)に登録された臨床研究の数	令和4年度	95件	
	410104		厚生科研の採択課題における事後評価の平均	-	厚生労働省調べ	なし	厚生労働科学研究がん対策推進総合研究事業の研究課題の当該事業の中間・事後評価の平均点数	令和4年度	13.5点	
	410105		「がん政策研究事業」成果に関する評価	-	厚生労働省調べ	なし	厚生労働科学研究がん対策推進総合研究事業の研究課題の当該事業の事後評価	令和4年度	不十分な成果となった課題がなく、計画どおり順調な成果が得られた。	
中間アウトカム指標	410201		CSO(Common Scientific Outline)分類別・部位別論文数、引用数	4014	論文データベース Dimensions (PRIMO)	-	-	令和4年度	別添	
	410202		(AMEDにおけるがんに関する)研究成果を活用した臨床試験・治験への移行数	-	AMED	なし	AMEDの疾患領域「がん」の各事業の研究開発課題における、研究成果を活用した臨床試験・治験への移行数(対象年度のKPIとしての報告数)	令和4年度	3件	
	410203		(AMEDにおけるがんに関する)事業承認件数(新規・適応拡大)(医療機器含む)	-	AMED	なし	AMEDの疾患領域「がん」の各事業の研究開発課題における、研究成果を活用した事業承認件数(新規・適応拡大)(医療機器含む)(対象年度のKPIとしての報告数)	令和4年度	新規: 0件 適応拡大: 0件	
	410204		(AMEDにおけるがんに関する)シーズの企業への導出件数	-	AMED	なし	AMEDの疾患領域「がん」の各事業の研究開発課題における、シーズの企業への導出件数(対象年度のKPIとしての報告数)	令和4年度	14件	
<b>人材育成の強化</b>										
アウトプット指標	420101		がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」事業評価	-	文部科学省からのデータ提供	-	-	-	-	
	420102		がんゲノム医療コーディネーター研修会参加人数	4,022	がんのゲノム医療従事者研修事業(～R4)、現況報告	なし	がんゲノム医療コーディネーター研修会参加人数	令和4年4月1日～令和5年3月31日	583人	
	420103	再掲	がんリハビリテーション研修プログラムを修了している医療従事者の人数	2,063	ライフプランニングセンターからのデータ提供	なし	がんのリハビリテーション研修(E-CAREER)を修了している医療従事者の人数。累計は平成22年度～令和4年度。	令和4年度(まで)	5,073人(累計 54,368人)	
	420104	再掲	小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会参加人数	4,023	小児・AYA世代の長期フォローアップ体制整備事業事業報告	なし	小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会参加人数	令和4年度(まで)	250人(累計 1,196人)	
	420105	再掲	緩和ケア研修修了者数	4,021	がん等における新たな緩和ケア研修等事業	なし	緩和ケア研修修了者数	令和4年度まで	171,779人	
	420106		緩和ケアに特化した講座を設置している大学の数	4,024	文部科学省からのデータ提供	なし	全国公私立大学医学部において緩和医療に関する講座を設置していた大学の数	令和5年5月1日時点	14大学	
中間アウトカム指標	420201		第4期がんプロで支援されたがん専門医療人材の人数	-	事業における取組状況調査	なし	「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」の選定大学における本事業の受入人数(実績値)	令和5年度	1,820人(正規課程: 427人、インテンシブコース: 1,393人)	
<b>がん教育及びがんに関する知識の普及啓発</b>										
アウトプット指標	430101		外部講師を活用してがん教育を実施した学校の割合	4031	がん教育の実施状況調査	調査に回答した国公立の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校	外部講師を活用してがん教育を実施した学校	令和4年度	11.4%	
	430102		がん情報サービスに含まれる項目数	-	国立がん研究センターからのデータ提供	がん情報サービス「一般向け」のページ数 がん情報サービス「一般向け」のコンテンツ数	医療者向け、統計情報、目次、冊子等の分割情報、過去のお知らせを除く。	令和5年3月31日	一般向けのページ数: 1028ページ(うちHTML941ページ、PDF87コンテンツ) 一般向けのコンテンツ数: 248コンテンツ	
	430103	再掲	拠点病院等で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数(総数)	-	現況報告書	なし	がん診療連携拠点病院等で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数(総数)	令和4年	1,717回	
	430104		がん対策推進企業アクションの参加企業数	4033	厚生労働省調べ	なし	がん対策推進企業アクションに参加している企業・団体の数	令和4年度	4,897社・団体	
中間アウトカム指標	430201		「がんは誰もがかかる可能性のある病気である。」に対して「正しい」と回答した割合	-	がん教育総合支援事業事業成果報告書	がん教育総合支援事業を受託した自治体において、がん教育の授業を受けた児童生徒	授業後のアンケートで、「がんは誰もがかかる可能性のある病気である。」に対して「正しい」と回答した児童生徒	令和4年度	97.2%	
	430202		「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。」に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合	-	がん教育総合支援事業事業成果報告書	がん教育総合支援事業を受託した自治体において、がん教育の授業を受けた児童生徒	授業後のアンケートで、「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。」に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒	令和4年度	95.1%	
	430203	再掲	がんの新しい治療法に関する情報の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあると思う人の割合	-	世論調査	R5がん対策に関する世論調査全回答者	問8. インターネットなどで入手できるがんの治療法に関する情報の中には、手術や抗がん剤だけではなくさまざまな新しい治療法に関する情報があります。あなたは、これらの情報の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあると思いますか。「あると思う」「ある程度あると思う」と答えた割合	令和5年度	90.1%	

分野	#	再掲	指標	3期	データソース	対象（分母）	算出方法（分子）	結果（対象期間）	結果（ベースライン値）	比較上留意が必要な指標
<b>がん登録の利活用の推進</b>										
	アウトプット指標	440101			全国がん登録	DCO分母：2019年年間がん罹患数 MI比分母：2019年年間がん罹患数	DCO分子：死亡情報のみの症例 MI比分子：死亡数	令和元年	DCO：1.9 MI比：0.4	
	中間アウトカム指標	440201		-	厚生労働省調べ／国立がん研究センターからのデータ提供 https://www.mhlw.go.jp/content/10901000/001226013.pdf	なし	全国がん登録利用申請数	令和4年まで	のべ総数 顕名 新規10件、更新16件 匿名 新規38件、更新19件	
<b>患者・市民参画の推進</b>										
	アウトプット指標	450101		4001	厚生労働省調べ	都道府県がん対策推進計画の策定に関する検討会における構成員の数	都道府県がん対策推進計画の策定に関する検討会における構成員のうち、がん患者等を代表する者の参加割合	令和5年	13.1%	
		450102		-	厚生労働科学研究	なし	研究班開発カリキュラム・コードを付与して開催した研修会の開催回数	令和5年度	1	
	中間アウトカム指標	450201		-	世論調査	R5がん対策に関する世論調査全回答者	問 18. 国は「患者・市民参画」を推進していますが、がん対策を進めるに当たって、あなたはどのように関わりたいと思いますか。「対策を進めるためには国民の協力が広く必要であり、積極的に関わりたい」「対策を進めるためには国民の協力が広く必要であり、積極的に関わりたいが、どう関わればよいかよくわからない」「対策を進めるためには国民の協力が広く必要であると思うが、積極的に関わりたいとは思わない」と答えた割合	令和5年度	89.5%	
		450202		-	日本癌治療学会からのデータ提供	一般社団法人日本癌治療学会正会員を対象とする学会MLを用いたwebアンケートの回答者数（1014名）	患者・市民参画について「言葉は知っている」、「言葉は知っているし、どの様なものが理解もしている」と回答した者（485名）の割合	令和5年度	47.8%	
<b>デジタル化の推進</b>										
	アウトプット指標	460101		-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等（456施設）	患者とその家族が利用可能なインターネット環境を整備していると回答した拠点病院等（368施設）	令和4年9月1日時点	80.7%	
		460102		-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等（456施設）	セカンドオピニオンを提示する場合は、必要に応じてオンラインでの相談を受け付けることができる体制を確保していると回答した拠点病院等（103施設）	令和4年9月1日時点	22.6%	
		460103		-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等（456施設）	集学的治療等の内容や治療前後の生活における注意点等に関する、冊子や視聴覚教材等がオンラインでも確認できると回答した拠点病院等（163施設）	令和4年9月1日時点	35.7%	

注釈 \* 患者体験調査、遺族調査、小児患者体験調査における一部の指標については、実態の変化に加えて、調査設計上の変更による影響が含まれている可能性がある。これらの指標については、2時点の差をもって改善又は後退と解釈するのではなく、参考値として慎重に解釈する必要がある。

\*1. 地域がん診療連携拠点病院、都道府県がん診療連携拠点病院、特定領域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院（各類型の特例型を含む）。

\*2. がんゲノム医療中核拠点病院等における人数。

\*3. がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム医療拠点病院における人数。

\*4. 大腸がん、肺がん、胃がん、乳がん、前立腺がん及び肝・胆・膵のがんを想定。

\*5. 地域がん診療連携拠点病院、都道府県がん診療連携拠点病院（各類型の特例型を含む）。

\*6. 診療の質評価指標（Quality Indicator、QI）研究参加施設（令和3年症例解析には649施設が参加、うち、国指定のがん診療連携拠点病院等指定施設は422施設。）

\*8. 膵がんを代表例として想定。難治性がんの定義について、今後検討が必要。

\*11. 小児がん拠点病院と、小児がん連携病院の類型1を分母とする想定。

\*12. 拠点病院等における診療従事者の配置状況を割合で評価する指標については、参考情報として診療従事者数の推移についても確認を行う。